

保育者養成校の学生が記憶するわらべうたについての一考察
—アンケート調査を通して—

吉用 愛子・関戸 洋子*

A Study of Children's Songs on Student Memory in
a Training Course Students for Nursling in Junior College
—investigation by questionnaire—

Aiko Yoshimochi and Hiroko Sekido

Abstract

To investigate the relationship of Children's Songs and students in Nursling training courses in Junior colleges during their childhood, we surveyed their hometown, the types of Children's Songs they listened to their childhood, the age they became familiar with the songs, the length of time they spent playing, and the person who taught them songs.

As a result of the survey, one of the most distinctive songs in students' memories of their childhood are "Hana Ichimonme", and "Kagome Kagome" from most of the regions where students came from. Most popular ages to play and sing children's songs with their peer group was the first grade of school. According to the survey, there were no significant differences among hometown of the respondents.

Received Oct. 30. 2004

Key word : children's songs. an oral tradition. peer group. playing ages.

キーワード：わらべうた、伝誦、遊んだ仲間、遊んだ年代

I] はじめに

近年、子どもを取り巻く社会・生活環境は日々急速に変化している。テレビはもとよりテレビゲーム、パソコン等の普及により、特に子どもの遊び環境は大きく変化し、子ども達が外遊びしている姿を目にすることが少なくなっている。このような日常生活のなかで、ある日戸外で数名の小さな子ども達の思いもかけない歌声を耳にした。「勝ってうれしい花いちもんめ、負けてくやしい花いちもんめ、あの子が欲しい、あの子じゃわからん、この子が欲しい、この

*名古屋芸術大学短期大学部

子じゃわからん、相談しましょ、〇〇ちゃんが欲しい……じゃんけんぽん」と「わらべうた」遊びをしていたのである。その歌詞とともに懐かしい子ども時代の気持ちに浸ることができた。

かつての子どもの遊びは、異年齢の混じった集団の遊びが多く、いわゆる集団遊びが大切な意味を持っていたといえる。兼永は¹⁾「遊びの中で、子ども達が追求するのは、どうすれば皆が楽しめるかということで、決して勝ち負けの結果だけではない……遊びを通して平等な権利や思いやりのある民主主義的ルールをつくることであった」と述べている。しかし、現状では「わらべうた」を歌った経験も少なく、またどんな歌があったかも知らない学生が多くなってきたように思われる。

「わらべうた」は古くから歌い継がれている子どもの歌で、おそらく多くのおとな達が幼少の頃から口ずさみ、故郷の思い出と共に心の中に生きているものであろう。

子どもは大人のような判断力はない。しかし、ひとの持っている生理的機能の中で、見ること・聴くことなどの感覚は最も早く発達し完成するものである。従って、子ども時代の感性をはぐくむ大切な役割を果たしてきたのが「わらべうた」ではないだろうか。

将来、幼児の保育・教育に携わる者にとって決して疎かにできない大きな側面の一つを把握・理解していることは大切なことであろう。

そこで、保育者養成校の学生が子ども時代に、どの程度まで、どのような「わらべうた」に親しんできたのか、また地域的な差異が見られるのかなど学生の記憶する「わらべうた」についてアンケート調査を通して把握することを試みた。

II] 方法

1) 調査方法および調査項目

アンケート方式により、「わらべうた」について、① 調査対象学生の出身地、② わらべうたを歌ってよく遊んだ年齢、③ どこでよく歌い遊んでいたか、遊んでいた場所、④ 誰とわらべうたを歌って遊んでいたか、⑤ 遊ぶことのできた時間、いつ遊んだか、⑥ 誰から教えてもらったか、および ⑦ 歌詞と遊び方の7項目について調査を実施し、採集したわらべうたを分類し、どのようなわらべうたが記憶に多く残っているかを記録した。

2) 調査対象

調査は岐阜県に所在するG大学短期大学部幼児教育学科と愛知県のN大学短期大学部保育科の学生を対象に実施した。

アンケートの回収は、G大学短期大学部幼児教育学科学生127名で回収率94.0%、及びN大学短期大学部保育科学生166名で回収率87.8%、合計293名である。

III] 結果

調査対象学生の居住地は表1に示すように、G大学では75.59%の学生が岐阜県出身であり、

保護者養成校の学生が記憶するわらべうたについての一考察

またN大学では67.47%の学生が愛知県出身であった。また、N大学へは愛知県への通学可能圏内の三重県、静岡県、岐阜県から約24.1%、そしてG大学へは愛知県、滋賀県から約14.1%となっていた。

表1 出身地 (人・%)

	G大学短期大学部		N大学短期大学部	
愛知県	16	12.60%	112	67.47%
岐阜県	96	75.59%	13	7.83%
三重県	1	0.79%	12	7.23%
静岡県	4	3.15%	15	9.04%
滋賀県	2	1.57%	1	0.60%
その他	8	6.30%	13	7.83%
計	127	100.00%	166	100.00%

今回の調査では、G大学の学生達が歌ったことがある、または記憶に残っているわらべうたは34種類、425曲、同様にN大学の学生は61種類、624曲、合計1,049曲を採りあげていた。小泉らは²⁾、わらべうたを遊戯の形態によって「となえうた」、「おはじき・石蹴り等」、「まりつき」、「なわとび・ゴムなわ」、「じゃんけん・グーチョキパー」、「お手合わせ」、「鬼あそび」の10種類に分類し、さらにそれらを細分化しているが、今回は細分化せず10種類そのまま採集し、その中で特に学生の記憶に鮮明であった上位5曲のわらべうたを表2に示した。表2に示すように両大学の学生は共に「花いちもんめ」、「かごめかごめ」の鬼あそびが上位を占め最も多かった。この他に両大学併せて、「お寺の和尚さん」(18.4%)、「ポコペン」(13.3%)、「あんたがたどこさ」(11.9%)、「だるまさんがころんだ」(9.5%)、「おせんべ」(9.2%)などがあげられていた。

表2に示した特に多くの学生の記憶に鮮明に残っていたわらべうた5曲を歌って遊んだ年齢は表3に示すように、幼稚園・保育園などのほぼ同年齢の頃(約42.1%)から小学校3年生までが多かった。

よく遊んだ場所は、小学校43.42%と多く、これに次いで自宅または友人宅となっていた(表4)。友達とは殆どの子どもが同年齢の子どもとの遊びが中心になっていた(表5)。即ち、表6に示したように、これらの遊びは学校での休み時間に集中していた。そして、いろいろなわらべうたは、学校での友達から遊びとして教えられ、伝誦されている(表7)。

遊んだ場所、遊び相手、遊んだ時、誰から伝誦されたか、それぞれの項目について、両大学の間には差異があるかどうかを検定(t検定)したが、地域的に東海地方に属し、両大学の学生の91%以上がこの中に含まれている。従って、大学別による差は認められなかった。

表2 記憶の鮮明なわらべうた (人)

	わらべうた	採集数
G 大 学	花いちもんめ	56.6% (72)
	かごめかごめ	48.0% (61)
	アルプス一万尺	26.7% (34)
	ずいずいずっころばし	26.7% (34)
	おちゃらか	21.2% (27)
N 大 学	花いちもんめ	43.3% (72)
	かごめかごめ	39.1% (65)
	ずいずいずっころばし	30.7% (51)
	アルプス一万尺	28.9% (48)
	郵便やさん	28.3% (47)

(重複回答を含む)

表3 よく遊んだ年齢

よく遊んだ年齢	G 大 学		N 大 学		全 体	
	学生記入数		学生記入数		学生記入数	
1 年 生	48	24.00%	66	32.51%	114	28.29%
2 年 生	31	15.50%	56	27.59%	87	21.59%
3 年 生	29	14.50%	34	16.75%	63	15.63%
4 年 生	11	5.50%	13	6.40%	24	5.96%
5 年 生	4	2.00%	10	4.93%	14	3.47%
6 年 生	3	1.50%	6	2.96%	9	2.23%
幼 稚 園	44	22.00%	40	19.70%	84	20.84%
保 育 園	41	20.50%	45	22.17%	86	21.34%
そ の 他	2	1.00%	3	1.48%	5	1.24%

(重複回答を含む)

表4 遊んでいた場所

遊んでいた場所	G 大 学		N 大 学		全 体	
	学生記入数		学生記入数		学生記入数	
公 園	20	10.00%	29	14.29%	49	12.16%
幼 稚 園	37	18.50%	26	12.81%	63	15.63%
保 育 園	31	15.50%	36	17.73%	67	16.63%
小 学 校	83	41.50%	92	45.32%	175	43.42%
自 宅・友 人 宅	31	15.50%	39	19.21%	70	17.37%
自 宅 の 近 所	13	6.50%	12	5.91%	25	6.20%
そ の 他	3	1.50%	4	1.97%	7	1.74%

(重複回答を含む)

保護者養成校の学生が記憶するわらべうたについての一考察

表5 誰と遊んだか

誰と遊んだか	G 大 学		N 大 学		全 体	
	学生記入数		学生記入数		学生記入数	
同年齢の友達	159	79.50%	174	85.71%	333	82.63%
異年齢の友達	16	8.00%	23	11.33%	39	9.68%
祖 父	2	1.00%	0	0.00%	2	0.50%
祖 母	5	2.50%	10	4.93%	15	3.72%
父	4	2.00%	3	1.48%	7	1.74%
母	11	5.50%	15	7.39%	26	6.45%
兄	3	1.50%	1	0.49%	4	0.99%
姉	6	3.00%	4	1.97%	10	2.48%
弟	2	1.00%	7	3.45%	9	2.23%
妹	4	2.00%	10	4.93%	14	3.47%
親 戚	3	1.50%	4	1.97%	7	1.74%
そ の 他	3	1.50%	6	2.96%	9	2.23%

(重複回答を含む)

表6 いつ遊んだか

いつ遊んだか	G 大 学		N 大 学		全 体	
	学生記入数		学生記入数		学生記入数	
放課後家に帰るまで	26	13.00%	12	5.91%	38	9.43%
放課後家に帰ってから	45	22.50%	51	25.12%	96	23.82%
昼 休 み	65	32.50%	34	16.75%	99	24.57%
休み時間	69	34.50%	94	46.31%	163	40.45%
授業(保育)中	28	14.00%	24	11.82%	52	12.90%
休 日	6	3.00%	18	8.87%	24	5.96%
そ の 他	1	0.50%	6	2.96%	7	1.74%

(重複回答を含む)

表7 誰から伝わったか

誰から伝わったか	G 大 学		N 大 学		全 体	
	学生記入数		学生記入数		学生記入数	
同年齢の友達	91	45.50%	104	51.23%	195	48.39%
異年齢の友達	9	4.50%	22	10.84%	31	7.69%
祖 父	2	1.00%	1	0.49%	3	0.74%
祖 母	19	9.50%	9	4.43%	28	6.95%
父	6	3.00%	4	1.97%	10	2.48%
母	21	10.50%	20	9.85%	41	10.17%
兄	0	0.00%	2	0.99%	2	0.50%
姉	2	1.00%	4	1.97%	6	1.49%
弟	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
妹	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
親 戚	2	1.00%	2	0.99%	4	0.99%
そ の 他	36	19.00%	28	13.79%	66	16.38%

(重複回答を含む)

IV] 考察

幼少期の子どもには大人のような力もなければ、良いこと悪いことに対する判断力もない。しかし視覚・聴覚は確実に発達している。従って、幼少期には感覚器のトレーニングが大切であろう。その一つにわらべうたがあり、わらべうた遊びにより豊かな感性がはぐくまれていくのである。歌詞の意味より子どもが口ずさみ、からだの動きに合わせて親しみやすく、自然に歌の中に溶け込み夢中になって遊ぶことができるといえよう。子どもの感性を育む、より深く人の心をゆさぶり動かす生き生きした言葉がわらべうたにはある。

ルソーは「エミール」³⁾の中で、5歳以下には特に身体的トレーニングや道徳的トレーニングとともに感覚的トレーニングの重要性を強調しているように、わらべうたは体の動きを伴った音の感覚であり、いかに正しく外からの刺激を捉えるかということ子ども達は学んでいるといえよう。

縄跳びうたの「大波小波」では、歌に合わせて身体的な敏捷性や巧緻性などをトレーニングする基礎となっている。また、歌に合わせて絵を描いていく絵描き歌は、歌いながら絵を仕上げ、そのでき不出来は子ども達の造形能力を養い巧緻性の発達を促すのではないだろうか。子らら遊びの「花いちもんめ」は、「グループ単位で相談しながら遊びを進め、友達との連帯意識やグループの構成力を強める。また、ルールを守る必要から社会性を身につけていく」⁴⁾といわれている。

今回の調査のきっかけは、学生が何気なく「“わらべうた”ってなあに？」といった言葉からである。しかし、結果は大多数の学生が“わらべうた”という意識は全くなく、無意識のうちに歌い遊んでいたようである。

わらべうたの記憶をたどる時、「歌詞を最後まで知らない」といいつつ、歌い始めると最後まで歌うことができ、しかも同時に歌に合わせて自然にからだが動いていた。幼少期に身につけたことは、生涯忘れることのできない思い出となるのであろう。

同じわらべうたでも、地域により多少歌詞や遊び方、動作に違いが見られたが、学生達にとっても良い交流のきっかけとなっていた。

現在の学生の幼少期は、核家族世帯が増加しつつあり、一世帯当たりの平均世帯人数が3.23人⁵⁾となり、働く母親も増えてきた時代である。しかも異年齢の遊び仲間の第一歩は兄弟・姉妹であった。しかし今日では遊び仲間を構成できない少子家族となり、近所の友人の数も遊び場も減り、おまけに塾やお稽古のために遊ぶ時間も制限されている。

かつて、子どもの生活は遊びと切り離すことができなかつたといえよう。しかし、祖父母や親兄弟と遊ぶ時間も少なくなりつつある中で、学生達は確実にわらべうたを歌って遊びに夢中になってきたようである。夢中で歌い遊ぶ中で、自己を實現し、遊びの中で自然に情緒的安定を得、対人的行動規範を身につけてきたともいえよう。

最近では、伝誦されているわらべうたは数的に少なくなっているが、遊びの楽しさがある限

り遊び歌い継がれていくのではないだろうか。

幼児期に、わらべうたから言葉を知り、語彙を獲得し、言葉を通して自分の意志を十分に他人に伝えることを学ぶのではないだろうか。豊かで安定した情緒も人との心の交流があって得られるものである。語彙が少なければ思考力も低下し、表現力も弱くなり、他人に対して自分の意志が十分に伝わらない時、苛立ちが募り、イジメ・暴力行為などへ繋がる恐れはないだろうか。

本来、わらべうたは音程がとりやすく、単純ですぐに歌え、遊びの動作を伴ったものである。従って、何度も繰り返し歌い遊んでいる間に、無意識のうちに深く記憶に刻まれることになる。また、遊び方の面から見ても、ルールが簡単で誰とでも直ぐに遊びに入り、夢中になれる魅力がある。

今日、家族構成、遊び時間、遊び仲間などの子ども社会の構造から見てもわらべうたの伝承が困難な社会になりつつあるが、日本の文化としてのわらべうたというだけでなく、わらべうたの本来持っている遊びとしての面白さや楽しさを、将来保育者となる学生や保育現場の保育者が次世代を担う子ども達に伝誦していてもらいたいものである。

参考文献

- 1) 兼永史郎 (1995) 「子どもと楽しむ手あそび・わらべうた」大阪保育研究所。
- 2) 小泉文夫編 (1969) 「わらべうたの研究」わらべうた研究会刊行。
- 3) ルソー著、長尾、原、永治、桑原 訳 (1975) 「エミール」第7版、明治図書。
- 4) 藤田恵一 (1992) 「子育てにわらべうたを」エイデル研究所。
- 5) 総務庁青少年対策本部編 (1990) 「青少年白書」平成元年版。

注) 「アルプス一万尺」は、外国の曲であり、日本のわらべうたの特徴を持たないが、学生の記憶として多く採用されたので、あえて加えた。

本稿は平成12年度岐阜聖徳学園大学短期大学部研究助成による成果であり、平成16年度第57回日本保育学会において発表したものである。

わらべうた調査（よく遊んで今でも覚えているわらべうた）

		No.	年	組	番	氏名	(幼・保)
よく遊んだ年齢	幼稚園 保育園 小学校1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生 その他 ()						
遊んでいた地域	都道府県 市郡						
遊んでいた場所	公園 幼稚園 保育園 小学校 自宅・友人宅 自宅の近所 () その他 ()						
誰と遊んだか	同年齢の友達 異年齢の友達 祖父 祖母 父 母 兄 姉 弟 妹 親戚 その他 ()						
いつ遊んだか	放課後家に帰るまで 放課後家に帰ってから 昼休み 休み時間 授業(保育)中 休日 その他 ()						
誰から伝わったか	同年齢の友達 異年齢の友達 祖父 祖母 父 母 兄 姉 弟 妹 親戚 その他 ()						
歌詞と遊び方							